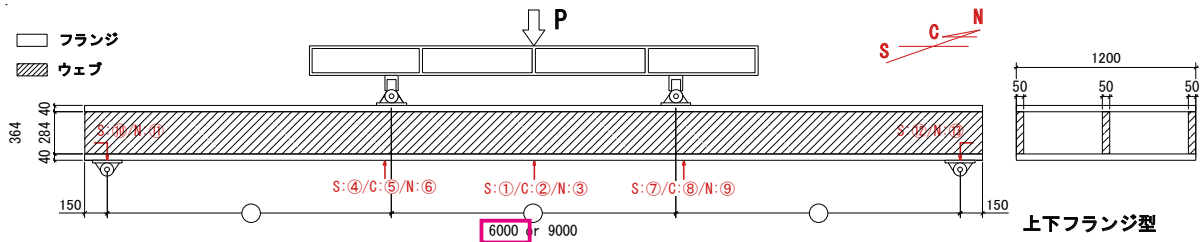


● 姿図・寸法



ウェブ：LVL（120E、カラマツ）

フランジ：LVL（90E、カラマツ） / 接着ビス接合 / 上下フランジ型 / 6000mm スパン

【使用材料】

ウェブ カラマツ LVL 120-1 級 50V-43H 50mm × 284mm

フランジ カラマツ LVL 90E-1 級 45V-38H 40mm × 1200mm

接合具 ビス：パネリードⅡ P6 × 90II+ (d=6.0mm、L=90mm、東日本パワーファスニング株式会社)

接着剤：UR-70（1液ウレタン系、株式会社オーシカ）

● 適用条件

ウェブとフランジを留めつけるビス間隔はウェブ - フランジ間の接着剤を見込まずに、せん断接合具を用いた組立梁とみなして長期鉛直荷重によるせん断力に耐え得るように決定する。

● 概要

LVL のみで構成された継ぎ手の無い大スパンのストレススキンパネルの実大材 4 点曲げ試験（単調押し切り加力）を行った。加力速度は  $P_{max}/10min$  以下とし、荷重が  $P_{max}$  の 8 割に低下するまで加力を続けた。中央たわみの変位測定（変位計①）により、荷重（たわみ）変形関係を求め、曲げ性能の評価を行った。

表 試験体種類（全 16 種類）

試験体名	LVL樹種	接合形式	断面形状	長さ[mm]	ビス間隔[mm]	試験体数	
C1-6000	スギ	ビスのみ	上フランジ型	6000	200	各3体	
C1-9000			上フランジ型	9000	200		
C2-6000			上下フランジ型	6000	150		
C2-9000			上下フランジ型	9000	100		
CB1-6000			接着ビス	上フランジ型	6000		200
CB1-9000				上フランジ型	9000		200
CB2-6000		上下フランジ型		6000	150		
CB2-9000		上下フランジ型		9000	100		
L1-6000		ビスのみ		上フランジ型	6000		200
L1-9000				上フランジ型	9000		200
L2-6000			上下フランジ型	6000	150		
L2-9000			上下フランジ型	9000	100		
LB1-6000	カラマツ		接着ビス	上フランジ型	6000	200	
LB1-9000				上フランジ型	9000	200	
LB2-6000		上下フランジ型	6000	150			
LB2-9000		上下フランジ型	9000	100			

● 接合具（メーカー、入手方法等）

ビス：東日本パワーファスニング（株）

接着剤：（株）オーシカ

● 問い合わせ先 URL

—

● 理論式

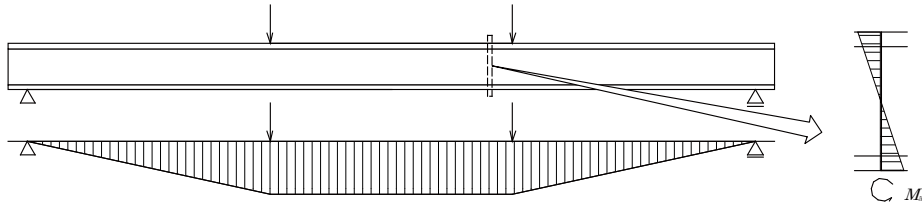
日本建築学会（2009）, 木質構造接合部設計マニュアル Design Manual for Engineered Timber Joints, 丸善, 4.4.1 せん断接合具を利用した組立梁として設計

● 計算式

—

●モデル化

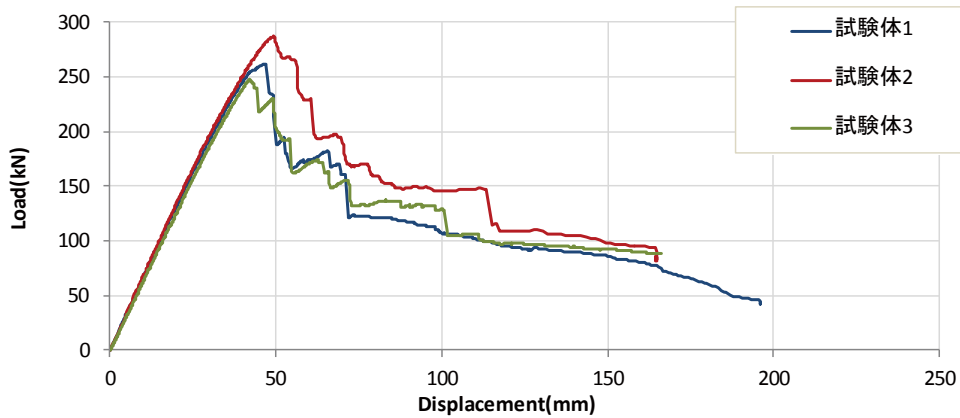
- ・せん断遅れによるフランジ幅の低減 (有効幅)
- ・ウェブとフランジが一体断面である複合材とみなす



●特性値

	初期剛性 $K$ [kN/mm]	降伏耐力 $P_y$ [kN]	最大耐力 $P_{max}$ [kN]	
LB2-6000	1	6.50	158.8	261.8
	2	6.70	164.1	287.3
	3	6.29	145.0	248.4
	<b>AVE.</b>	<b>6.50</b>	<b>156.0</b>	<b>265.8</b>
	<b>S.D.</b>	<b>0.201</b>	<b>9.87</b>	<b>19.74</b>

●荷重変形



●破壊性状

- ・フランジ端部においてウェブ側直交層のローリングシア (層内せん断) が発生することで断面性能が低下し、ウェブ下縁に曲げ破壊が発生して最大耐力が決定した。3 試験体とも同様の破壊性状を示した。



フランジ端部のローリングシア (試験体 1)



ウェブの曲げ破壊 (試験体 1)

要材  
素料

接合  
員

接合  
部

部組  
材立

屋  
根

柱

梁

1  
ブ  
スレ

壁

床

集  
成  
材

≡

製  
材

合  
板

そ  
の  
他